

大正元年五月

紀淡海峽、南方友、

島燈台、濃務信長、

叔五方、

外務省

文書調

大正
同 月 月 日
同 月 月 日

送第 辦

主 管



事務

九百七十三号

一九一三年十月二十六日

日本帝國外務大臣内田正徳閣下

社団法人依り

外務省

ラトウキツ

皇書東致送上候陳者北社逸ロイド社復
式標旋汽船ビローリ本年五月横濱ヨ
リ神方へ向テ航行中和泉海峡ノ南方友島
前方ニ於テ濃霧ニ遭リ暗礁ニ突リ懸テ
候事海濱保海上事局審判ノ結果右罹災
ノ原因ハ皇帝カ潮流ノ關係ニ歸セサルヲ得
サルト判明致候得共之ト同時ニ友島

有力な海防設備を水中聴音機、探信
 機、大穴點ト認メテ候儀ヲ帝國海軍省
 及内務省ニ於テモ友々島燈臺ニ濃霧探信
 機所ヲ置キ度ト申出シ望ミ、希望ト認
 ヲ候。付テ本使由本帝國當該官憲
 ニ於テ一般航海業ノ便利ヲ計リ、海島燈
 臺有力ニ設備スル候儀カ將シ水
 中聴音機等ノ候儀御盡力、上何分、
 外務省
 御四省ノ燈臺右本國政府ノ訓令ニ依リ
 御依頼等本使ハ茲ニ同下ニ向ヒテ御意
 ヲ表候敬具

geneigtst darauf hinwirken zu wollen, daß im
allgemeinen Schifffahrtsinteresse der Leuchtturm
von Tomoga Shima mit einer kräftigen Nebelsirene,
einem Knallsignal oder einer Unterwasserglocke
ausgerüstet werde.

Einer gütigen Antwort entgegensehend, be-
nutze ich die Gelegenheit, Ihnen, Herr Minister,
meine ausgezeichnetste Hochachtung erneut zu ver-
sichern.

Der Kaiserlich Deutsche Botschafter.

Im Auftrage

Radowitz

Kaiserlich
Deutsche Botschaft.

Nr. 127.

Tokio, den 28. November 1912

要
約
書

水
部
大
使
館
長
官
様
へ

大正元年十一月廿八日接受

09262種

Herr Minister !

Im Auftrage meiner hohen Regierung habe ich die Ehre, Euerer Exzellenz folgendes übermitteln zu dürfen:

Der Doppelschraubendampfer „B ü l o w“ des Norddeutschen Lloyd ist am 19. Mai 1912 auf der Fahrt von Yokohama nach Kobe südlich der Isumi-strasse vor der Enge bei Tomoga Shima im dichten Nebel auf einen Felsen geraten. Die Untersuchung des Seeamts in Hamburg hat ergeben, daß die Strandung auf ungewöhnliche Stromversetzung zurückgeführt werden müsse. Es ist aber gleichzeitig als ein grosser Mangel anerkannt worden, daß Tomoga Shima nicht mit einem kräftigen Nebelhorn oder einer Unterwasserglocke ausgerüstet ist.

Nachdem auch das Kaiserlich Deutsche Reichsmarineamt und Reichsamt des Innern den Wunsch nach einer Nebelsignalstation bei dem Leuchtturm Tomoga Shima als berechtigt anerkannt haben, habe ich die Ehre, Euere Exzellenz zu bitten, bei den zuständigen Kaiserlich Japanischen Behörden geneigtest.

Seiner Exzellenz

neigtest.

dem Kaiserlich Japanischen Minister
der Auswaertigen Angelegenheiten
Herrn Vicomte U c h i d a .

通商
第二課
船務
部
長
官
様
へ
送
付
申
上
す

文書課長 大正元年三月廿九日 12

大正元年十一月廿九日 起算 告田

送附 一 一 一 號

主管 通商局長

大正元年三月廿九日 送附

海軍次友

水路部長宛

友島燈台ニ漂着信子ノ設備設置

方独逸大使館ヨリ依頼ノ件

大正元年十一月四日記録二接安一

外務省

本件函ニ付独逸大使館ヨリ

別紙書翰呈上ノ事ニ付申越候條

為御参考及御移附候事

相取奉進也

(別紙十月廿八日付独逸大使館第一二七号

書翰及御文呈添付ノ事)

第14号 第19号 第1号

多路部ハ
ハハハハハハ
ハハハハハハ
ハハハハハハ

ハハハ

つ友

第14第
第9第
第1第

文書課長 大正元年三月參日 發受 //

大正 元年十一月廿九日起算 吉田
同 月 三 日 附 別紙
送第 一七〇 號

主管 通商局長

大正元年 參月 參日 發受

近位 少 友 外 少 友

青島 局長 宛 通商局長

友島 燈台 濃務 信子 設備 設置 方

独逸 大使 館 可 件 集 件

大正元年十一月四日記録(二) 文書

外務省

本件 二 國 之 未 独逸 大使 館 可 件

別紙 書 翰 中 未 兼 未 兼 通 申 報 備 件

茲 二 及 他 移 添 候 用 街 証 議 上 付 方 備 件

兼 見 有 未 備 件 御 由 未 相 成 慶 集 集

未 備 件 也

別紙 十 月 廿 日 附 独逸 書 翰 一 二 七 号 書 翰

翰 字 二 及 七 款 文 字 二 添 附 書 翰

文書課長 大正元年三月三日 5

浄書 検印 封

ワカ

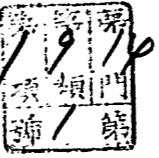
大正 元年十二月二 日起草
同 年 月 三日附

送第 方大 號

主管 通商局長



圭



大正元年三月三日 建済

大臣

東京 新乙大使宛

友島燈台ニ濃霧信号設備設置

方ニ示レ新乙大使館ヨリ希望中此ノ件

大正元年 一月四日記録一編

外務省

以去新設燈台ノ陳者 北東海峡

南方友々島燈台ニ濃霧信号設備

ニ示方希望ノ件ニ示レ若月二十日

付分一二七号貴局 以中越ノ趣

以(關係)友座ノ砂礁、及互ノ糸

右標内所切取成反 本十在 中若寺

本大臣ノ意ニ重示テ閣下ニ向リテ教

意ヲ表シ以 教具



大正元年三月參拾日

課文

商第二課

第11569號

管第六四號

回答

大正元年三月廿一日

通信官濱口雄幸



外務次官倉知敏吉殿

友ヶ島燈台ニ濃霧信補泊室
方ニ閣ノ獨逸大使館ヲ希

望申出ノ件

送附一七〇棉(三月廿一日)移附

本件ハ追テ建設ヲ要スル他ノ航路標

識ト緩急ヲ比較考量シ相當ノ霧警

遞信省

佈設置ノ見込ニ有之テ其時期ハ經
費豫算ノ都合ニ依リ義ニ有之テ名
方ニ片ヲ彙相成候小

郵政省庶務課工務課

次友

明治三十二年一月六日 日 起 曹 森
年 八 月 九 日 開

文書課長 天正貳年壹月 八日 接受

文書課長 曹 森

天正貳年壹月 九日 曹 森

主管 通商局長

送金 四 號

在 奉 邦

獨逸大使宛

外務大臣

友ヶ島燈臺、濃霧作難

設置方、同、在 件

外務省

大正十一年一月 日記録 撥付

以書翰致留上候陳者客年十一月二十

八日附才一二七號 貴翰云云 海軍

越相成候友ヶ島燈臺、濃霧作難

設置方、儀、同、シ、客年十二月三日附

送才六六号ヲ以テ申進置候以才有、

候為今般同候存候ヨリ帝國政府、

建設、要、他、概、略、概、識、後、急、以、較

考、量、シ、上、同、燈、臺、相、當、霧、作、難

設置、見込 十八日 候、其時、
御本儀、様有、候、事、御、下、向、
貴國政府、傳達、方、可、其、所、取、計、
此、外、中、進、書、等、右、取、下、向、
御、意、義、候、敬、具、

御本儀、様有、候、事、御、下、向、
貴國政府、傳達、方、可、其、所、取、計、
此、外、中、進、書、等、右、取、下、向、
御、意、義、候、敬、具、

外務省